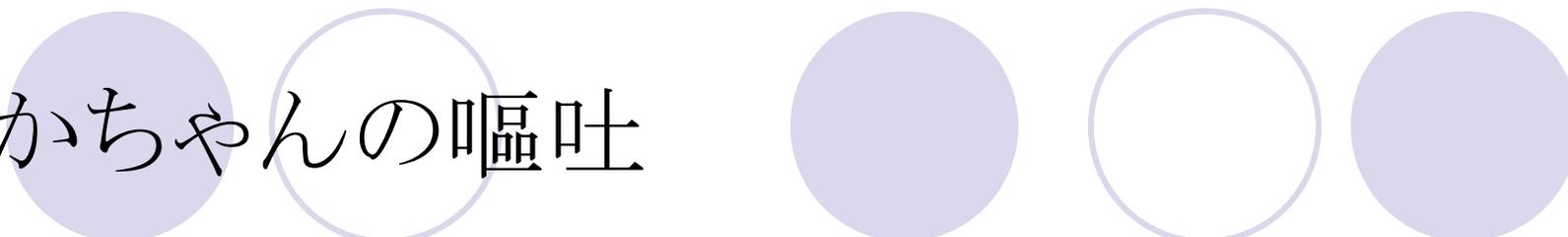


観察のポイント

- 子どもの胃や腸は大人のように発達していないので、咳をしたり、食べ過ぎた時などちょっとした原因で吐くことがよくあります。

このような嘔吐は心配ありませんが、嘔吐を伴う症状には重大な病気に関わるものも多いため、注意する必要があります。

回数はどうか、腹痛はあるか、頭痛はあるか、
機嫌はどうか、食欲はあるか、下痢があるか、
熱があるか、をよく観察して下さい。

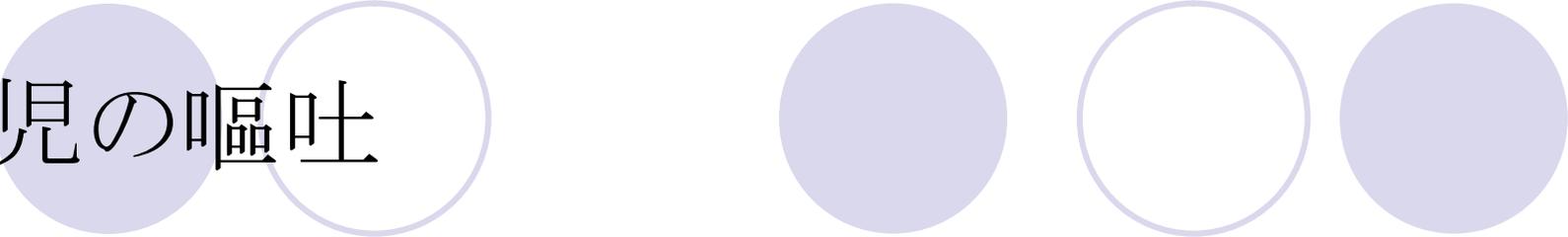


あかちゃんの嘔吐

ダラダラ、ゲプツと吐いて、
後はケロリとしている場合は心配ありません。

※生後間もない赤ちゃんの胃は、
胃の入り口(噴門)の筋肉がまだ弱いため、ちょっとした刺激でミルクを吐いてしまうことがあります。

順調に体重が増えているようなら、多少吐いても発育に影響することはありません。



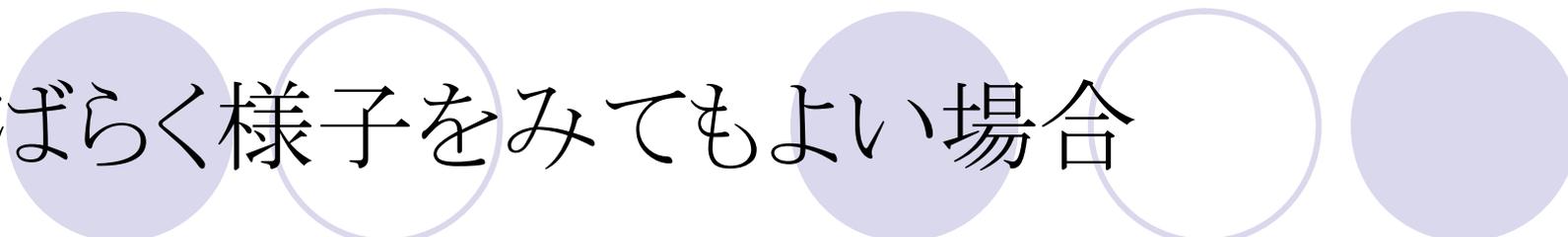
幼児の嘔吐

風邪や扁桃腺、胃腸炎の時は吐きやすくなります。

※1歳以上の幼児になると、乳児の時ほど簡単には吐かなくなります。

風邪をひいた時など激しく咳き込んだ拍子に吐くこともあります。単に吐くだけでは急を要するものではありません。

発熱や頭痛あるいは血便など他の症状を伴っているかどうか、観察しましょう。



しばらく様子を見てもよい場合

- 吐く回数が5回以内でおさまり、吐いた後はケロリとしている。
- 吐き気がおさまった後、水分が摂れる。
- 下痢・熱などがなく、全身状態が悪くない。
- 食欲がある時、元気がある時、睡眠がとれている。

早めに救急外来を受診した方がよい場合

- ミルクの度に嘔吐と下痢を同時に何度も繰り返す。
- 血液や胆汁（緑色の液体）を吐いた。
- 何度も吐いた後、コーヒーかすのような色や黄色の胃液になった
- 強い頭痛を伴ったり、強く頭を打った後。
- けいれんを伴ったり、意識がぼんやりしている。
- 12時間以上、何度も下痢をしている。
- おしっこがでない。
- 唇が乾いている。
- お腹が固く張っている。

嘔吐

2ヶ月未満

2ヶ月～6歳

次の症状はみられますか？

- 母乳、ミルクの度に勢いよく嘔吐を繰り返す。
- お腹が張っている。
- お腹がひどく痛そうだ。
- 血液や胆汁（緑色の液体）を吐いた。
- 活気がない、無気力。
- いつもと違う様子である。
- 12時間以上、何度も下痢をしている。
- おしっこがでない。
- 唇が乾いている。
- ボーッとしていたり、ちょっとした刺激に過敏に反応したりする。

症状がみられたものを「はい」とした場合

「はい」が1つ以上

なし

小児科医のいる医療機関を受診してください。

次の症状はみられますか？

- お腹が張っている。
- 我慢できないほどの激しいお腹の痛みを訴える。
- 血液や胆汁（緑色の液体）を吐いた。
- 活気がない、無気力。
- いつもと違う様子である。
- 12時間以上、何度も下痢をしている。
- おしっこがでない。
- 唇が乾いている。
- 頭痛を訴えており、ボーッとしていたり、ちょっとした刺激に過敏に反応したりする。

症状がみられたものを「はい」とした場合

「はい」が1つ以上

なし

様子をみながら診療時間になるのを待って医療機関へ

ただし、症状が大きく変わったら小児科医のいる医療機関および休日夜間急患センター等を受診して下さい。

家庭での対応

- 吐き気の強い時は、飲食をせずに30分～2時間は様子をみましょう。
- 嘔吐の間隔が空いたら、湯冷まし、お茶を少しずつ、回数を多めに与えましょう。
- 胃腸を休めるために固形物を与えるのは控えましょう。
- 脱水症状になりやすいので、吐き気がおさまるのを待ち、水分を十分に与えましょう。